

『教育は人なり』

後志教育研修センターは後志管内20市町村が管内の教職員、社会教育担当者等の資質・能力の向上を目指した研修講座事業等を協働で実施することを目的として設置されたものであります。昭和50年に発足し、令和3年度で設立46年目を迎えます。この度は、各市町村教育委員会をはじめ、北海道教育庁後志教育局、各教育関係機関や研究団体のご支援とご協力により、本年度の研修講座開催の体制を整えることができました。

次代を担う子どもたちが未来社会を確実に切り拓くことができることを目指し、全ての講座の中で、全面実施されている学習指導要領の理念である社会に開かれた教育課程の下、改訂の大きなテーマである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、学校現場との連携を一層密にした授業改善を促す研修講座となるよう策定しました。

昨年度の研修講座受講数は例年より大きく減少していますが、感染症対策の関係で学校現場では大変な状況になっているにもかかわらず、多くの教職員が講座を受講し、研修に対して真摯に取り組む姿には頭が下がる思いであります。このような教職員の意欲に添えるべく、コロナ禍の状況下においても、研修の灯火は絶やさないとこのセンターとしての姿勢を今一度深く認識し、その運営に当たってまいります。本年度の研修事業は新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、基本的には集合研修とし、次のように実施します。

- ① 学校での公開授業は行わない（但し国語科研修講座は当該校の公開研究会と併せて開催する）
- ② 全ての講座を午後からの半日日程とする（13:00～16:00）
- ③ 外部講師の招聘は管内のみとする（管外の外部講師による研修はオンライン研修とする）

コロナ禍における令和時代の学校教育は、ICTが学びの一つの手段としてよりウエイトを占めてくるのは確実であります。しかしながら、どんなに科学技術が進歩しても、教育という営みが、人間が人間をより良い人間に育てていく営みである限り、教育する人間の心遣いや能力・態度が教育をうける者に影響してくるのは否定できません。それは、教師の生き方そのものが子どもにとって鏡になるからです。学校教育の根底は「流行」にあるのではなく、「不易」にあると考えます。私達は今一度、原点に立ち返り、「教育は人なり」の言葉をしっかりと噛みしめたいと思います。

結びになりますが、講師陣の皆様にはコロナ禍の状況下にもかかわらず、講師を引き受けて頂き、日常の授業実践に生かせる研修資料を周到に準備していただいたことに改めて感謝申し上げます。センター職員一同、今年度も多くの教育関係者の皆様が受講されるのを心よりお待ちしております。

令和3年4月

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠